



三菱電機パッケージエアコン別売部品 外付け電子膨張弁据付工事説明書

※据付け前に本説明書と室内ユニットの据付工事説明書をよくお読みください。

安全のために必ず守ること

- 据付工事は、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ、確実に行ってください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。



警告

誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの。



注意

誤った取扱いをしたときに、軽傷または家屋・家財などの損害に結びつくもの。

- 据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、お客様に「安全のために必ず守ること」や使用方法・お手入れの仕方等を説明してください。
- また、この据付工事説明書は取扱説明書とともに、お客様で保管していただくように依頼してください。
- また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方にお渡しいただくように依頼してください。



警告

- ポリ袋は幼児の手の届くところに置かない。
- 頭からかぶるなどしたときに口や鼻などをふさぎ窒息する原因になります。
- 据付けは、販売店または専門業者に依頼する。
- お客様自身で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電・火災等の原因になります。

- 据付工事は、この据付工事説明書に従って確実に行う。
- 据付工事に不備があると、感電・火災等の原因になります。

据付け(移設)・電気工事をする前に



注意

- 冷媒配管の断熱は結露しないように確実に進行。
- 不完全な断熱施工を行うと配管等表面が結露して、露たれ等が発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になります。
- 接続部の断熱施工は、気密試験後に行ってください。
- 電気配線は、電流量にあった規格品の電線を使用すること。
- 漏電や発熱・火災の原因になります。
- ドレン配管は、据付工事説明書に従って確実に排水するよう施工し、結露が生じないよう断熱処理すること。
- 配管工事に不備があると、水漏れし、天井・床その他家財等を濡らす原因になります。

1. 部品の確認 この箱の中には、この据付工事説明書の他に下記部品が入っていますので、ご確認ください。

品番 品名	①外付け電子膨張弁	②異径継手配管	③パイプカバー	④バンド	⑤ファスナー	⑥中継ケーブル No.2(100mm品)
個数	1	2	2	6	2	1
形状						

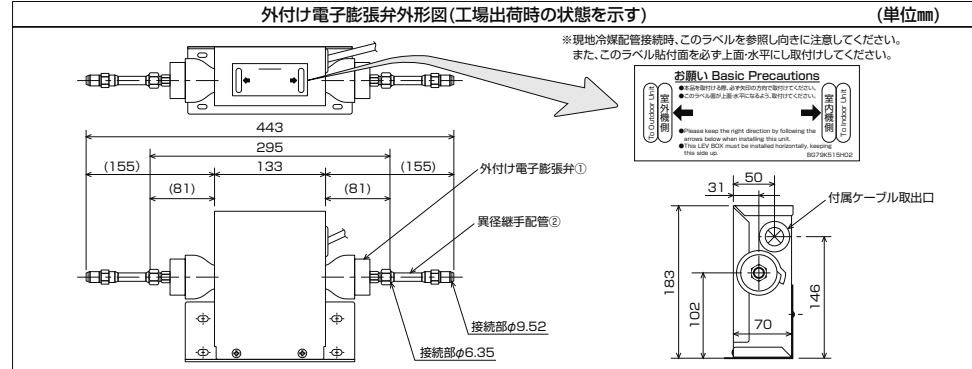
- 注意 室内ユニットPKFY-AMS、BMS形以外の機種と併用する場合は、室内ユニットの電源を入れる前に、必ず別売外付け電子膨張弁の据付工事を完了させてください。
- ※万一、この作業手順どおりに据付工事をなされなかった場合は、正常な運転ができなくなります。
- お買上げの販売店またはお近くの「三菱電機修理窓口・ご相談窓口」にお問い合わせください。
- 室内ユニットPKFY-LM形との併用はしないでください。

別売形名	適用機種
PAC-SG95LE	フリープラン室内ユニット22~71形

2. 据付手順 外付け電子膨張弁は液管に取付け、天井内に設置してください。(屋外へは設置しないでください。故障の原因になります) 天井へは、必ず点検口を設けてください。

2-1 据付場所の選定

据付方法については、下図のパターンから選択可能です。それぞれの場合の位置関係で外形図を参照し、据付位置を決定してください。なお、本部品で冷媒音が発生するため、室内ユニットから5m以内(配管長5m、付属ケーブル5.3m)で、廊下など室内から離れた場所に設置してください。

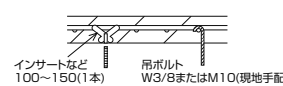


据付方法パターンA(吊ボルト方式、推奨パターン)

- 吊ボルト(現地手配、W3/8またはM10)を設置する。設置位置は右図を参照し決めてください。また、吊り下げ構造については下記のように強固な構造にします。

- 【木造・簡易鉄筋の場合】
- 小屋梁(はみ・平屋建て)または2階梁(2階建て)を強度メンバーとしてください。
 - ユニット吊り下げには丈夫な角材を用いてください。梁間が 90 以下の場合は6角以上の角材、梁間が 180 以下の場合は9角以上の角材

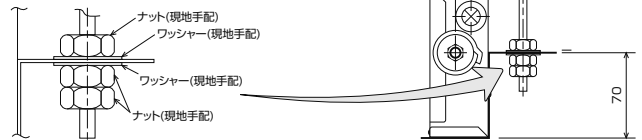
- 【鉄筋の場合】
- 下図の方法で吊ボルトを固定するか、またはアングル・角材などを利用して吊ボルトを取付けます。



- 外付け電子膨張弁①の据付用金具を下図のように付け換えます。(据付用金具を先に吊ボルトに固定する方法でも可)

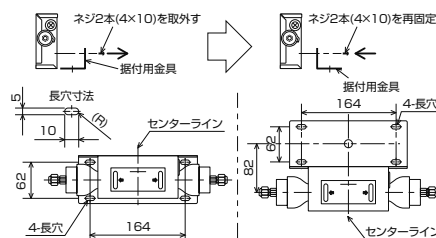


- 外付け電子膨張弁①を吊ボルトにセットし各ナットとワッシャーを締付けます。



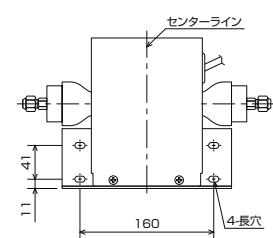
据付方法パターンB(天井内平面取付方式)

- 下図のように、外付け電子膨張弁①の据付用金具を付け換えることにより2)パターンの取付けができます。据付用金具の長穴4ヶ所にてネジ(現地手配)固定する。



据付方法パターンC(天井内垂直面取付方式)

- 下図のように、据付用金具の長穴4ヶ所にてネジ(現地手配)固定する。



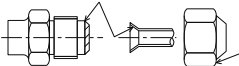
2-2 配管接続作業

1. 取付場所決定後、液管をフレア加工し、フレアシート面に冷凍機油(現地手配)を塗布してください。
2. 現地冷凍配管を接続してください。

パイプ径 ()	A寸法(mm)		フレア寸法 φB寸法(mm)	締付力 N・m(kgf・cm)
	R410A用フレアツール	従来(R22/R407C)のフレアツール		
φ6.35(1/4")	リジット(クラッチ式)		8.7~9.1	14~18(140~180)
	0~0.5	1.0~1.5		
φ9.52(3/8")	リジット(クラッチ式)		12.8~13.2	34~42(340~420)
	0~0.5	1.0~1.5		

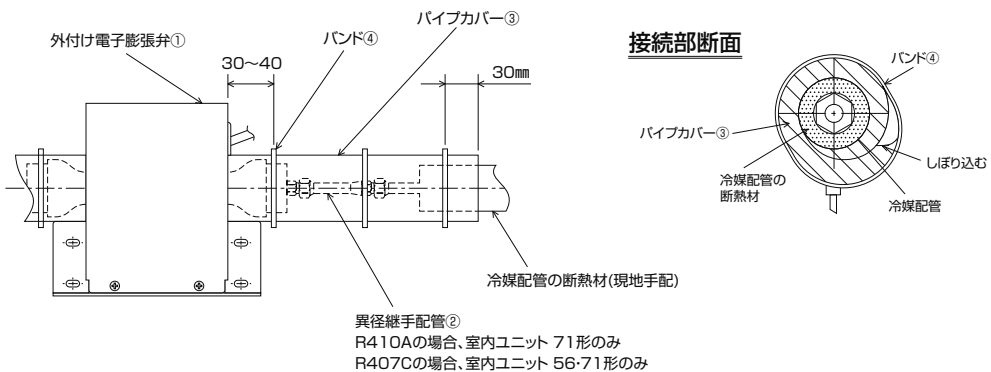
※従来のツールを使って冷凍R410A用のフレア加工をする場合は、上表を参考に加工してください。
出し代調整用の銅管ゲージを使用すれば、A寸法が確保できます。

フレアシート面全面にエステル油または
エーテル油またはアルキルベンゼン油を少量塗布
※ネジ部分には塗布しないでください。
(フレアナットがゆるみ易くなります)



※フレアナットは、必ず本体に取り付けら
れているものを使用してください。
(市販品を使うと割れることがあります)

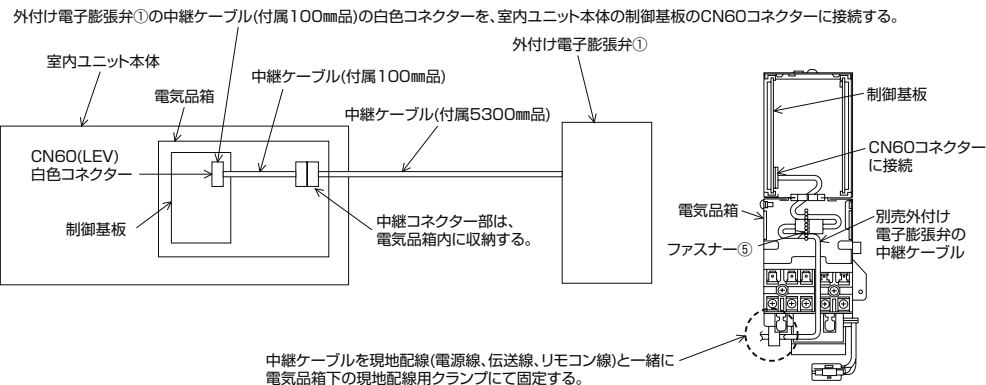
3. 液管接続部を付属のパイプカバー③にて外付け電子膨張弁①外面に押し当てて巻いてください。
4. 付属のバンド④にてパイプカバー③を下図のように固定し、確実に断熱してください。



3. 配線手順

室内ユニットにより配線作業方法が異なりますので、下図を参照し配線作業をしてください。
また、各室内ユニットの中継ケーブルの接続作業時の電気品カバー等の取外し方法については、
各室内ユニット付属の据付工事説明書を参照してください。各室内ユニット内の中継ケーブルの取り廻しは
現地配線の電源線・伝送線・リモコン線と同様の取り廻しをし、現地配線用クランプにて固定してください。
なお、電気品箱内の中継ケーブルの結束には、ファスナー⑤を使用してください

室内ユニットPKFY-AMS,BMS形の場合

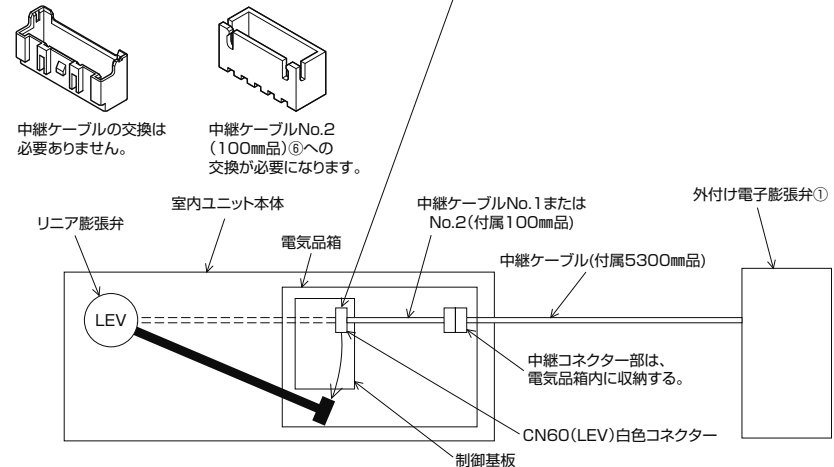


PKFY-AMS,BMS形以外の室内ユニットの場合



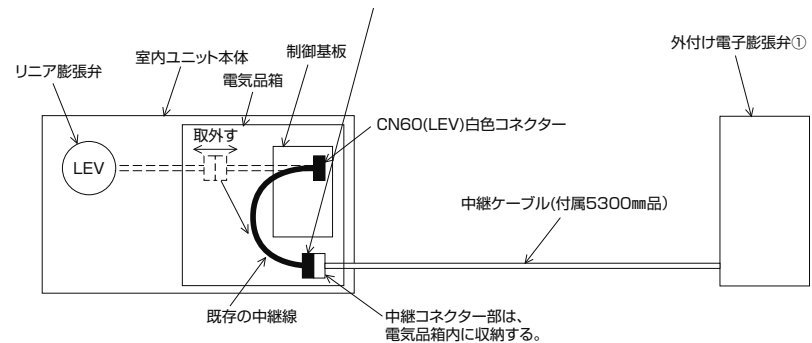
リニア膨張弁の配線差し替え作業が完了するまで、室内ユニットの電源を入れない。
配線差し替え作業を完了せず、室内ユニット内蔵のリニア膨張弁のコネクタが接続された状態で室内ユ
ニットの電源を入れると、室内ユニット内蔵のリニア膨張弁が閉じてしまい、正常な運転が出来なくなります。
(工場出荷状態ではリニア膨張弁は全開)
室内ユニット内蔵のリニア膨張弁を閉じてしまった場合、リニア膨張弁を全開に戻す必要がありますので、
お買い上げの販売店またはお近くの「三菱電機修理窓口・ご相談窓口」にお問合わせください。

室内ユニット本体の制御基板のCN60コネクタには、工場出荷時、室内ユニット本体内蔵のリニア膨張弁のコネクタが接
続されていますので外付け電子膨張弁①の中継ケーブル(付属100mm品)の白色コネクタと差し換えてください。
また、一部の機種について下記のようにCN60白色コネクタ形状が異なるものがありますのでその場合は電子膨張弁①の
中継ケーブルNo.1(付属100mm品)を付属の中継ケーブルNo.2(100mm品)⑥と交換してください。
取外したリニア膨張弁のリード線は、ファスナー⑤にてまとめ、電気品箱に収納してください。



● 制御基板とリニア膨張弁が中継コネクタで接続の場合のみ下記接続方法でも可能です。

室内ユニット本体の制御基板から出ている中継リード線と外付け電子膨張弁①の中継ケーブル(付属5300mm品)の
白色コネクタと差し換えてください。
取外したリニア膨張弁のリード線は、ファスナー⑤にてまとめ、電気品箱に収納してください。
※中継ケーブルNo.1(付属100mm品)は、不要になりますので取外してください。



4. 試運転

室内ユニットおよび室外ユニット付属の据付工事説明書を参照し、試運転を実施してください。